

平成 30 年度

## すずかけの家事業計画

### まえがき

忙しさの合間を縫って、昨年全国大会に行けた。そこは、充実感に満ちた表情の報告者たちと宅老所の思いを実現しようという気概に満ちていた。

### 更に小規模多機能の良さを生かす

昨年度に引き続く課題である。小規模多機能の良さとは、宅老所の願い⇔[家族や地域・周囲の人とのつながりの中で、喜びや楽しみを感じ、自分自身の存在を感じるこれまでの暮らしの継続]を実現していく過程であろう。

従って、「通い」「泊り」「訪問」と共に「事業所や地域の持てる機能を生かしたマネジメントをする」機能をフルに使った「介護」をしていく。

そのために、昨年に引き続き「にっこりほっこり」の取り組みや、「介護力」としてのコミュニケーションや(関係性等の)コーディネート能力を強めて、本音を探り居場所をつくる努力をしていこう。

### 地域の拠点化&ネットワーク化に向けて

すずかけの家での居場所づくりは、地域での居場所づくりにも繋がっている。それは、地域住民始め多くの社会資源との関係づくりといえる。

昨年度は、篠原の多くの住民が「すずかけ利用者」と関係を作っていることが分かった。運営推進会議に反映させつつ篠原の里や自治会・防災組織とのより強いパイプをつくりたい。

また、RUN伴やゆずカフェへの積極的関わりを通して、「認知症」「高齢者」を理解する勉強会を実現させていかねばならない。それがすずかけの家を強くする力になっていくであろう。

### 運営経営基盤の安定化と労働条件の改善

- 利用者増の恒常化に伴う「待機者」の調整。  
タイミングやすずかけの力量不足ですずかけを利用できなかった方のためにも、勤務体制をより工夫していきたい。それは、外部研修に取り組む時間づくりにもなる。
- 一方、職員各自が講師になる「内部研修」はより充実させたい。外の世界は、若手職員がどんどん発表の機会をもっているのだから。
- 利用者負担を含む介護報酬収入による経営⇒収支のバランスを取るのは、至難の業ではあるが、とりわけ給与所得の引き続きの改善と健康・長続きできる労働条件の整備に工夫を強めていかねばならない。